

ドキュメンタリー 矯正治療

ひるま矯正歯科
院長 晝間康明

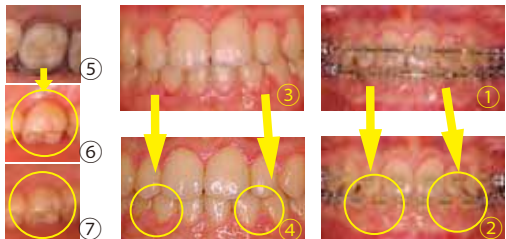


今号と次号の2号にわたり、保定期間中の虫歯や歯周病予防方法、噛み合わせや歯並びの変化、保定から矯正治療完了について報告します。

保定開始後の初期治療

矯正治療開始前から唾液検査と歯周基本検査を行ない、矯正治療期間中も毎回クリーニングを行なって虫歯や歯周病のリスクを下げて、長期矯正装置を装着する事で装置の周りに細菌が付着しリスクが増加している場合があります。そこでリムーブ時に再度唾液検査と歯周基本検査を行ない、虫歯と歯周病のリスクを確認、リスクを下げるための初期治療を行ないます。

本症例のリムーブ時の検査では、歯と歯の間に僅かに磨き残しがあった事(PCR17.5%)、歯肉からの出血(BOP9.5%)を認めました(ドキュメンタリー矯正治療2007年9月リムーブ後の検査参照)。そこで歯科医院で行なうプロフエシヨナルケアとして、歯と歯の間の隣接面、歯と歯肉の間の歯肉溝内のバイオフィルムの除去を超音波スケーラーと手用スケーラーで除去しました。また、家庭で行なうホームケアとして、ワイヤー装着していた動的期間中は充分に行なう事が出来なかった



フックがあった事で下顎前歯の歯肉が腫れていたが、リムーブ後の初期治療で腫れが改善(①～④)。バンドを装着していた歯肉の腫れも同じく改善(⑤～⑦)。

保定開始後のメンテナンスとホワイトニング

フロスの使用と、歯と歯肉の間をマッサージし血行促進するブラッシングを徹底してもらいました。特に下顎前歯唇側は矯正治療期間中に装着されていたゴムをかけるためのフックがあった事、大臼歯部はバンドが装着されていた事でバンドと歯肉の間の衛生状態が低下し、歯肉が腫脹する歯肉炎になっていました。初期治療により改善しました。(一)

保定開始後の初期治療が終ると、来院間隔は検査結果のリスクの状態に合わせて2～4ヵ月に1度に変わり、リテーナーチェックと虫歯と歯周病予防のためのメンテナンスになります。虫歯と歯周病の原因である細菌の固まりバイオフィルムは、1度除去しても約3ヵ月で再度付着し放置すると除去しづらくなります。メンテナンスではバイオフィルムの状況に合わせて様々な器械により除去します。また、肉眼では見落としてしまうバイオフィルムを染め出し液で着色し確認しながら除去し、患者さんのブラッシングが不十分な部位を指導しサポートを行なっています。

保定期間のメンテナンスで注意しなければいけないのは、固定式の保定装置周囲です。固定式の保定装置は、通常歯の裏側に接着し接着剤は歯と歯肉の境目付

近まで広がっているため、歯肉溝(歯と歯肉の間の溝)内にバイオフィルムが浸入し増殖し歯肉炎になりやすくなるため注意深いブラッシングが必要です。しかし、装置が歯の裏側に装着され患者さんから直視出来ず磨きにくい

だけでなく、歯を白くしてより綺麗にするホワイトニングを希望される方も多く、ひるま矯正歯科ではこの時期にホワイトニングの対応が可能となります。

保定開始後の噛み合わせの変化と保定期間

実は動的治療終了時の仕上がりでは、上下の最後方臼歯をあまり強く噛ませていません。この様な状態を専門的にはディスクルージョン(臼歯部の離開)と呼び、保定期間中に臼歯が自然に噛む方向に移動する変化を促します。

私たちは、歯の位置をミリ単位でコントロールする事が可能ですが、患者さんの噛み合わせの感

覚を完全に把握する事は出来ないで、最後の仕上げは患者さんの自然な変化に任せているのです。そして、この自然の変化によつて、矯正治療で人工的に作り出された歯並びが、患者さんの筋肉や粘膜、噛む力に合わせて調和のとれた真に機能的な歯並びとなるのです。したがって保定期間中に起こるこの変化は徐々に噛みやすくなる変化なのです。この変化で歯は噛みやすい方向に動きますが症例によつては好ましくない変化が起きる事もあります。その時は変化の原因を把握し、再調整を行なうかどうか患者さんと相談しますが、再調整をするためにはブラケットやワイヤーを再度装着しなければならぬ場合が殆どなので、

動的治療できちんと仕上げておく事が大切なのです。保定期間については様々な研究報告がありますが、「矯正治療の仕上がり完璧であれば保定は必要無い」とするものから「永久に保定しておいた方が良い」と言うものまで様々です。ひるま矯正歯科では保定の期間はおおむね2年と考えており、症例により期間を変更します。これは、保定装置とは言え口腔内に存在する異物であり、特に固定式装置の場合は虫歯や歯周病の原因となる細菌増殖の温床となりますので、保定期間を長期化する事は患者さんにとって良い事では無いものの一定期間の保定装置は必要と考えているからです。

また、固定式保定装置が部分的に外れてしまう事があり、そのままにしておくとう装置の裏側にバイオフィルムが形成され虫歯や歯周病の原因となります。その様な事がないように装置が外れていないか確認して外れている場合は再接着をしたり、装置を作り替えたりして対応します。

